

dアカウントログイン

新規にdアカウントをつくる

dPOINT

→ P

会員情報の確認・編集

dポイント利用者情報・配送先情報

決済サービスご利用案内

spモード決済・d払い

ニュース

ニューストップ

新着

マネー・投資

企業・産業

マーケット

ビジネス・ライフ

コラム

コラムトップ

新着

マネー

投資

FX口座

証券

NISA

融資

クレジットカード

ビジネス

不動産

お金の単語帳

お知らせ

dメニューマネーからのお知らせ

プッシュ通知の解除方法について

トップ

ニュース

コラム

TOP > コラム > マネー

教育資金をつくる



相談「子供の大学進学に向け積み立てをしています、毎月の教育費も多く、積立額を減らすべきか迷っています」

2023/9/21 10:30

FPに相談

教育にかかるお金

dmenu マネー

会社員・女性（43）、共働き 子供2人（中1長男、小5次男）の相談

「子供の大学進学に向けて、積み立てをしています、毎月の教育費がかさんでいて、積立額を減らせないか迷っています。夫婦の手取り月収は45万円、教育費が毎月8万円近いです。なお大学進学資金は子供1人あたり500万円が目標で、長男は月3万円、次男は月2万円貯めています。現在、長男分は300万円、次男分は120万円貯まっています」

アドバイス1 教育費を手取り収入の15%までを目安に減らしましょう

将来の積み立てを減らす前に、現在の教育費を見直し、手取り収入の15%までを目安に減らしましょう。

相談者の家庭の場合、夫婦の手取り月収は45万円ですので、「45万円×15%＝6万7500円」が毎月の教育費の上限ですが、8万円近くかかっているとのことなので、18%弱と少し高めです。

「子供にはできるだけお金をかけてあげたい」という気持ちがあるかもしれませんが、大学進学には大きなお金がかかる以上、現在の教育費を見直して多少抑えることも必要です。毎月の教育費に上限を設け、その上限を超えないよう意識してみましょう。



次ページへ

もう一つのアドバイスは.....

前へ

1

2

次へ

1/2ページ

dアカウントログイン

新規にdアカウントをつくる

dPOINT

→ P

会員情報の確認・編集

dポイント利用者情報・配送先情報

決済サービスご利用案内

spモード決済・d払い

ニュース

ニューストップ

新着

マネー・投資

企業・産業

マーケット

ビジネス・ライフ

コラム

コラムトップ

新着

マネー

投資

FX口座

証券

NISA

融資

クレジットカード

ビジネス

不動産

お金の単語帳

お知らせ

dメニューマネーからのお知らせ

プッシュ通知の解除方法について

dmenu マネーとは？

dmenu

ニュース

天気

乗換／旅行情報

メニューリスト

マイメニュー

dメニュー設定

My docomo（お客様サポート）

dアカウントについて

トップ

ニュース

コラム

TOP > コラム > マネー

教育資金をつくる



相談「子供の大学進学に向け積み立てをしています。毎月の教育費も多く、積立額を減らすべきか迷っています」

© 2023/02/21 10:30

FPに相談

教育にかかるとお金

dmenu マネー

アドバイス2 積み立てを減らした分をどう補てんするか決めましょう

教育費を上限内に収めたくうえで、大学進学資金の積み立てを減らすなら、減らした場合はどのように補てんするのか決めましょう。具体的には、奨学金の種類や借りの額、返済のシミュレーションをしますが、進路などは現時点で分かる範囲の仮定で構いません。

ただし私立文系の場合、4年間でかかる学費は約470万円です（文科省のデータから試算）。長男の積み立てを現在の月3万円から1万円減らして月2万円にしても、大学進学までに合計で420万円貯められます（300万円＋2万円×60ヵ月）。

足りない分の学費約50万円は、長男が大学に進学した後、毎月1万円ずつ増やせばかなえる計算です（1万円×48ヵ月）。

一方、次男の資金については、今のまま月2万円を貯めていけば、5年間で合計240万円貯まります（120万円＋2万円×60ヵ月）。

また、長男が大学に進学した後の2年間は、次男の積立額を増やして月3万円にすれば、入学までに合計312万円貯められます（240万円＋3万円×24ヵ月）。

広告の下に記事が続きます

さらに、次男が大学3年生になるとき、長男は予定通り進級すれば卒業しますので、その後の学費はかかりません。毎月4万円を学費に充てれば、次男の学費は総額で408万円支出できます（312万円＋4万円×24ヵ月）。

子供の大学進学後は、現在の月8万円近くの教育費を大学の学費に充てれば、奨学金を借りなくてもいいかもしれません。

いずれにしても、今かかっている教育費の見直しは必要です。現在の教育費を優先しすぎず、大学進学費用とのバランスをとりましょう。

文・武藤貴子（ファイナンシャル・プランナー）

編集・dメニューマネー編集部

【関連記事】

- ・「メルカリ活用術」断捨離しておこづかいを！
- ・ANAとJALの株主優待を徹底比較！おすすめはどっち？（外部）
- ・絶対避けたい！「老後破産」特集
- ・積立NISAを始めるタイミングは2023年がベスト？（外部）
- ・人気シリーズ「銀行員が教える」



詳細を確認する